



一般社団法人 全麺協

2024.9.16

ニュースフラッシュ 第40号

ニュースで伝える全麺協の今

発行:全麺協ニュースフラッシュ編集グループ
編集責任者:総務局長 原 秀夫

令和6年度 特任・全国審査員会議 開催報告

8月25日(日) 江東区古石場文化センターにて、特任審査員16名・全国審査員45名が集い、特任・全国審査員会議を開催しました。会議の目的は、令和元年の開催から5年が過ぎ、新たに多くの特任審査員・全国審査員が任用されており、技能審査にあたって統一した見解を共通認識として持っていただくためです。会議は、理事長挨拶に始まり、(第1講)全麺協の今後について、(第2講)特任・全国審査員としての責務と心得、(第3講)特任審査員になって(代表6名によるディスカッション)、(第4講)質疑応答で進められました。日頃の疑問点に対し、活発な質疑応答をと思ひ時

間配分をしていましたが、直前の台風10号の発生により交通事情を考慮し、カリキュラムの時間割の変更及び会議終了後の交流会の中止と、少し悔やまれるものとなりました。しかし、全麺協組織とそば道段位認定制度の信頼は、特任・全国審査員の双肩にかかっており、審査員として、常に自覚を持った言動・行動に努めることを再認識して頂きました。

また、事前アンケートで皆さんから寄せられた問い合わせについては、今後検討し回答することとして、閉会となりました。

(事業局長 井 敏朗)



理事長挨拶



講義会場



参加者集合写真

北海道東川町への寄贈式・留学生そば打ち体験 開催報告

去る7月18日、東川町「せんとびゅあ」日本語学校ホールにて、昨年全麺協30周年記念に東川町から協賛をいただいた御礼として、そば道具を寄贈させて頂きました。

全麺協本部からは、中谷理事長・山本副理事長・篠原副理事長が、東川町からは、菊池町長・副町長はじめ文化交流課の関係者の皆様にご出席され寄贈式を行いました。

東川町では、留学生に日本文化に触れてもらうことの一つとして、そば打ち体験教室を実施しております。その際に長く活用していただけるよう、ねり鉢10個・包丁10丁を贈呈させて頂きました。御礼に東川町からは感謝状を贈呈され、今後益々、全麺協と同町のそばを通じた交流が深まることを期待するものです。これに先立ち、今回3回目となる、留学生のそば打ち体験もおこなわれました。



これまではアジア圏からの留学生が主でしたが、今年は、ヨーロッパやアメリカからの留学生もおり、約70名の留学生が2回に分かれて体験しました。各回とも、沼田雪中そば倶楽部の川邊美津江さんがデモ打ち、甫木が解説したあとに、それぞれ3~4名のグループに別かれてそば打ちをしました。指導には旭川近郊の会員の皆様のご協力を仰ぎ実施することが出来ました。おそろおそろ鉢に手を入れていた留学生も作業が進むにつれ、和気あいあいと楽しそうな声があふれ、包丁の大きさに驚きながらも無事に切り終え、指導した私たちもホッと一息ついた次第です。グループごとに出来上がったおそばを実食したあとに、事前に会員が打ったそばも美味しく食べていただき、微力ながらも日本のそば文化を伝えることが出来ました。今後も留学生へのそば打ち体験教室は、本部企画部事業として継続していく予定です。
(本部企画担当部長 甫木美千子)



2024江戸ソバリエ認定講座 開催報告

江戸ソバリエ協会で開催している講座の中で、そば打ちを実際に行う(手学)会場として、8月25日と9月1日の2日間にわたり研修センターを使っていただきました。2日間で40名程度が受講しました。江戸ソバリエ協会のホームページによれば、江戸ソバリエ(EdoSobalier)は江戸蕎麦の通人を表す民間の資格で、江戸ソバリエ認定講座です。耳学(蘊蓄)、手学(蕎麦打ち体験)舌学(食べ歩き)、脳学(考える)を受講し、舌学及び脳学のレポートを提出していただき、審査委員会が厳正に審査し、一定の成績を収められた方を江戸蕎麦の通人として認め、認定証を発行されています。認定者数は約1,800名です。江戸ソバリエ協会理事長 ほしひかる氏には、昨年行われた五段位全国大会や六段位認定会の審査員を務めて頂きました。江戸ソバリエ協会と当会が、今後とも引き続きそれぞれの事業について協力し合うことは、とても有意義な事ではないかと感じたところです。

(研修センター 萩原敏彦)



各支部から

中日本支部審査員研修会 開催報告

中日本支部では令和元年より審査経験の少ない審査員を対象に審査技術実践研修会を行い審査レベルの向上に取り組んでいます。8月4日(日)松本市の「信州そば道場」にて審査技術実践研修会模擬認定会が開催され、審査員11名、受験者10名の参加がありました。午前中の二段位模擬認定会では新規任用予定者3名を含む6名の審査員が、午後の三段位模擬認定会では5名の審査員がそれぞれベテラン審査員3名と共に審査を行い、認定会での動線や見方、評価の仕方を



体験し先輩審査員や他の審査員との採点結果の違い等からの気づきを得ていただきました。模擬認定会の受験者には全国審査員から認定会に向けてのアドバイスがあり、認定会本番に向けての課題が明確になった1日となりました。

(中日本支部事務局長 百瀬洋一)

JA北九 女性大学そば打ち体験講座 開催報告

7月31日に平尾台手打ちそば倶楽部の拠点である「ソラランド平尾台」食工房に於いて「JA北九女性大学そば打ち体験講座」を開催しました。JA北九女性大学は年間6講座を企画していますが今回初めてそば打ち体験を募集したところ総勢30名(子供3名含む)と大変多くの参加者となり、和気あいあいと賑やかなそば打ち体験となりました。当日は10時に集合し、800gのそば打ち体験と試食の後、



2人前を持ち帰りパックを詰めて、12時30分解散というスケジュールを講師10名で対応しました。各打ち台ごとに一つの世界ができて、真剣なまなざしの中、感動の言葉を発し笑い声が生まれ、そば打ちを本当に楽しんで頂けたと思います。手打ちそばの美味しさを知っていただき、来年もぜひ継続して講座が開催されることを願っています。

(平尾台手打ちそば倶楽部書記 松山 悟)

皆様からの情報提供をお待ちしています。

全麺協ニュースフラッシュ編集グループ

編集責任者 原 秀夫

編集主任 入江一統

チーム員 横田節子 赤羽章司